

事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	企画部政策企画課		■担当係	政策推進係
■評価事業名称	定住自立圏に関する事務			
■事業開始年度	平成26年度			
■評価事業コード	010100 - 270	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	06 市民が主役となり企業や行政と協働するまちづくり		
	■基本施策	06 広域行政の推進		
	■施策	01 広域行政の推進		
■事業の種類	05 ソフト事業(任意)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に定めはあるが任意の自治事務			
■法令等の名称	定住自立圏構想推進要綱			
■関連計画の名称	奥州・北上・金ケ崎・西和賀定住自立圏共生ビジョン			
■事業の目的と概要	近隣市町と定住自立圏の形成に取組み、圏域全体の活性化を図り、人口減少に歯止めをかける。			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成30年度事業計画	平成30年度事業量実績
01	定住自立圏に関する事務	圏域住民	○首長会議 1回 ○副首長会議 1回 ○共生ビジョン懇談会 1回 ○共生ビジョン見直し 1回(2月)	○首長会議 1回 ○副首長会議 1回 ○共生ビジョン懇談会 1回 ○共生ビジョン見直し 1回(3月)

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
直接事業費	43	95	75	53	
人件費	2,532	2,928	2,671	2,690	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	2,575	3,023	2,746	2,743	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	指標の説明
01	担当者会議等の開催	首長会議1回、共生ビジョン懇談会2回	首長会議1回、副首長会議1回、共生ビジョン懇談会1回、担当課長会議4回、担当者会議6回	首長会議1回、副首長1回、共生ビジョン懇談会2回、担当課長会議2回	首長会議1回、副首長会議1回、共生ビジョン懇談会1回、担当課長会議1回	首長会議、担当課長会議、担当者会議等

事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

02	定住自立圏における新規取組み件数	0件	1件	2件(消防団交流事業、職員の合同研修事業)	3件(北上市済生会病院新病院建設支援、農楽工楽クラブ事業費補助金、小中学生の博物館等の入館料無料)	必要に応じた連携を検討する。
----	------------------	----	----	-----------------------	---	----------------

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

ワークショップや分科会での検討により、連携事業として北上市済生会病院新病院建設支援、農楽工楽クラブ事業費補助金、圏域小中学生の博物館等の入館料無料化が具体化できた。

問題点・課題等

圏域住民が定住自立圏構想のメリットを実感できる取組みを検討する必要がある。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

具体的な連携方策や事業については、ワークショップや分科会において継続的に研究・検討していく。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了